

令和5年度生駒市立病院管理運営協議会第3回会議録

■ 日 時 令和6年3月16日（火）午後2時00分から午後4時00分

■ 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター

■ 出席者

(1) 会 員	会長	生駒市長	小紫	雅史
	副会長	生駒市立病院 院長	遠藤	清
	医師会等医療従事者	一般社団法人奈良県病院協会理事		
		近畿大学奈良病院 病院長	村木	正人
		一般社団法人生駒市医師会 副会長	萩原	洋司
	公募市民		玉井	得雄
			岡島	保弘
	市自治連合会を代表する者	生駒市自治連合会 会長	森岡	文夫
	地元自治会を代表する者	東地区自治連合会 会長	伊藤	征史郎
		東生駒自治会 副会長	栗岡	みのり

(2) 事務局 【生駒市】 山本副市長、吉村福祉健康部長、市川福祉健康部次長健康課長兼務、水澤地域医療課長、天野課長補佐、奥野主幹病院事業推進係長兼務、川口係員

【指定管理者】 辻川看護部長、岸田事務部長、持田事務長

■ 傍聴者 3名

■ 会議の公開・非公開の別 公開

■ 会議の内容

【事務局（市）】 只今から「令和5年度生駒市立病院管理運営協議会第3回会議」を開催いたします。

本日の会議につきまして、遠藤副会長が諸事情により遅れて出席となりますが、生駒市立病院管理運営協議会要綱第6条第3項の規定により、会議は成立しております。

また、同要綱第7条の規定により本会議は公開としております。

本日の会議では、会議録作成のため録音させていただきますのでご了承の程よろしくお願いいたします。

次に、本日の配布資料等について確認させていただきます。

<配布資料>

●会議次第

●令和6年度 生駒市立病院事業計画書

●令和6年度 生駒市立病院事業計画書説明資料

以上3点になります。

それでは、会議次第2「会議内容の確認」について、事務局からご説明申し上げます。

生駒市病院管理運営協議会は、「市立病院の管理運営について会員の皆様方のご意見を反映させることで、健全な管理運営および市民参加の病院を実現すること」を目的として開催されます。

本会議におきまして、皆様からのご意見を求める事項は、生駒市立病院管理運営協議会要綱に定められており、いただいたご意見を元に、PDCAサイクルを意識した市立病院の継続的な業務改善及び健全な管理運営を図ってまいります。

それでは、会議次第3「案件」に移らせていただきます。

要綱第5条で「会長は市長、副会長は市立病院の院長をもって充てる」と規定しております。以後の進行につきましては、要綱第6条の規定により会長が議長となりますので、小紫市長、よろしくお願いいたします。

【小紫会長】本日は年度末、また週末の大変お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、平素は生駒市立病院、そして生駒市の医療を始めとしたまちづくりに大変お世話になっておりますこと感謝申し上げます。

今日からとても暖かくなって、竜田川沿いを散歩していますとたくさんの方が歩いておられて、もうそろそろ春到来かなという感じではございます。市立病院もコロナ禍でいろいろ大変な時期もございましたが、令和6年2月9日付で第三者評価の病院機能評価を取得し、また、令和5年度協力型臨床研修病院の指定を受けております。病院事業推進委員会の方でも現在、「生駒市立病院経営強化プラン」を作成しております。

この6月で開院から丸9年経ち、10年目に入ることですのでございます。そういう意味では一つの大きな節目を迎えるという時期でございますけれども、今日も色々のご意見をいただき、10年目のスタート、そして次の10年どのような市立病院にしていくのかというような話も最後に少しお時間をいただき、ご説明またご意見をいただこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは議題に入っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

4時までには終了したいと思っておりますけれども、忌憚ないご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは会議次第3「令和6年度生駒市立病院事業計画書」について、事務局から説明を受けた後、項目ごとに意見交換をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは事務局から説明をよろしくお願いいたします。

【事務局（市）】それでは、まず初めに本日資料「令和6年度生駒市立病院事業計画書」をご覧ください。1枚めくっていただき、目次をご覧ください。

本事業計画書は、目次の通り、「1医療提供計画」「2施設管理計画」「3組織図」「4収支計画」の4部構成となっており、事業計画の策定にあたっては、令和4年度実施状況調

査報告及び令和5年度中間報告を経て、当協議会にていただいた意見等を計画に反映させた内容となっております。

次に、もう一つの資料「令和6年度生駒市立病院事業計画書説明資料」をご覧ください。
1枚めくっていただいて、目次をご覧ください。

診療科目、病床数、人員体制、患者数の基本項目を、9ページ以降は病院事業計画のコンセプトごとに区分して記載しております。

課題等をどのように計画に反映させているかなどの内容がわかりやすいように作成しております。本日は、主にこの説明資料に沿って説明させていただきます。

それでは、説明資料の1・2ページをお願いいたします。

こちらの表の見方ですが、表の一番左端が病院事業計画の欄、右に向かって順番に令和4年度事業報告、令和5年度中間報告、両報告を基に抽出された課題等を表記した上で、一番右端が令和6年度事業計画となっております。

令和6年度事業計画、抽出された課題がどのように計画に反映されているかがわかるように、課題に対して計画に反映している部分を下線表記しております。

それでは指定管理者から説明をお願いいたします。

【事務局（指定管理者）】 それでは、説明資料の1・2ページをご覧ください。

「診療科目」でございます。「診療科目」については17診療科でございます。既存の診療科の医療体制を維持し、より高次、専門性の高い医療機関との連携を進めます。

次に、3・4ページの「病床数」でございます。

救急患者の積極的な受け入れを始め、病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる常勤医師の確保、地域医療機関との連携強化による紹介患者の受け入れに取り組みます。

また、新興感染症の感染拡大となった際は、国や県の要請に基づき、ゾーニングを行うとともに、より多くの検査を行える体制整備や病床の確保を目指します。

次に、5・6ページの「人員体制」でございます。

令和7年3月末における常勤医師は合計で27名を計画しております。看護師は外来部門が60名、入院部門が99名、合計で159名を計画しております。

医師の確保につきましては、常勤医師が不足しております整形外科等での確保を含め、増員を図り、入院医療を充実させます。

また、医師事務補助作業者を増員し、医師の業務負担の軽減を図るなど、医師の働き方改革の取組として、引き続き、勤務環境の改善を行います。

続きまして、7・8ページの「患者数」でございます。

一日平均患者数ですが、年間の一日平均患者数は入院が141.4名、外来が294.5人でございます。各月の一日平均患者数はご覧のとおりでございます。

外来患者数については、令和5年度までコロナワクチンの集団接種会場を設け、多くの方にワクチン接種を実施していたことから、接種者を含む患者数と含まない患者数を計上して

おりましたが、令和6年度計画では他のワクチン接種と同じ体制となり、接種者数も多く見込まれないことから、ワクチン接種者を含まない患者数は計上しておりません。

入院・外来患者の増加に向けた取組といたしましては、入院医療に対応できる常勤医師の確保や、地域の医療機関との病病・病診連携の推進及び救急患者の確実な受け入れのほか、積極的に広報活動や医療講演会を実施いたします。

市民への周知の取組といたしましては、ホームページに加え、LINE公式アカウントでの配信、病院だよりの発刊といった広報活動の推進を、そして地域の医療機関への周知の取組といたしましては、地域医療連携室の職員による地域の医療機関への情報提供を推進いたします。

続きまして、9・10ページをご覧ください。市立病院のコンセプトの「質の高い医療の提供」でございます。

本年度においても、引き続き安全で質の高い医療サービスの提供を目指し、患者にとってベストな治療・ケアを行います。また、病院機能評価の取得を機に、更なる質の高い医療提供体制を目指します。

本年度の手術件数の目標ですが、全体で1,300件を目指します。

また、分娩件数としては250件としております。

産婦人科と小児科が連携することで、新生児、乳幼児に係る母子医療体制を整備・充実いたします。

また、導入予定機器として、小児科で使用するインキュアーチ（搬送用保育器）等、以下ご覧のとおり計画しております。

続きまして、11・12ページでございます。「主要4疾病に係る医療体制」として、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病について提供できる医療機能や役割を明記しております。

患者満足度の向上につきましては、入院・外来患者アンケートの調査の実施やご意見箱の内容への対応、院内スタッフ対象の接遇研修の実施などを掲げております。

続きまして、13・14ページでございます。医療安全管理体制につきましては、市民・患者に信頼される安全で安心できる病院を目指します。医療安全管理委員会、医療安全カンファレンス、医療安全勉強会を定期的実施し、医療事故の防止と医療安全対策の強化に努めます。

また、継続的に院内感染防止活動に取り組み、感染の蔓延期には、N95マスクの着用を徹底します。さらに、新興感染症の感染拡大に備えて、院内専従の感染管理認定看護師を配置するなど、院内における感染管理をより一層徹底し、臨機応変に対応します。

続きまして15・16ページでございます。「地域完結型の医療体制構築への寄与」といたしまして、地域の医療機関との病診・病病連携を積極的に推進するとともに、介護・福祉施設との密接な連携を図ります。

また、病診連携懇話会を開催し、地域医療従事者の情報共有、意見交換の場を提供いたします。在宅支援機能の充実といたしまして、増加する在宅患者やそのかかりつけ医をサポート

トする後方支援病院としての役割を果たすため、医療連携登録医や協力医療機関連携施設等との連携を強化し、在宅患者等の増悪時の積極的な受け入れを行います。

また、入退院支援チームの推進、市の入退院調整マニュアルの積極的な活用により、円滑な入退院の推進を図ります。また、地域医療機関への医療教育プログラムの提供として、各種症例検討会や講演会を実施いたします。

続きまして、17・18ページでございます。「周辺の他の医療機関との連携」といたしまして、医師会と地域医療の課題を共有し、顔の見える関係を構築することで、スムーズな地域医療連携を推進します。また、地域の診療所と地域医療連携の推進のため、引き続き、MRI、CT、内視鏡及びエコーの紹介利用を推進いたします。

さらに、地域の医療機関との病病・病診連携及び協力体制を重視し、紹介率40%、逆紹介率25%を目指します。

また、地域医療連携推進のため、地域医療連携室の職員が地元医療機関を積極的に訪問し、地元医療機関のニーズを把握し、診療情報等の提供を行います。

続きまして、19・20ページをご覧ください。「救急医療の充実」でございます。救急患者を「断らない」という姿勢のもと、24時間365日受入体制を整え、地域住民が安心できる救急医療体制の充実を目指して、救急受入件数3,000件、救急応需率95%を目指します。

また、市内内科系二次・外科系一次二次輪番体制への参加に向けて、引き続き、関係機関と協議を行うとともに、市内等輪番病院や休日夜間応急診療所のバックアップの役割を果たします。

続きまして、21・22ページをお願いします。救急受入体制といたしまして、医師、看護師、検査技師、放射線技師、薬剤師、事務職員の当直等、患者数に応じて必要な人員体制を引き続き整備します。特に整形外科等の常勤医師の確保に努め、当直・オンコール体制のさらなる充実を目指します。

続きまして23・24ページをご覧ください。「小児医療の充実」につきましては、小児の救急対応、入院患者の受け入れ等小児二次医療体制の充実を図ります。また、引き続き、奈良県と情報交換をしながら、北和小児科二次輪番体制に寄与します。

次に、「災害時医療の確保」でございます。大規模災害時において、傷病者の受け入れや医療救護に対応可能な体制を引き続き整備し、災害対策マニュアルに沿って現場スタッフや地域住民が参加する実地訓練を行います。

次に、「予防医療の啓発」でございます。更なる市民の疾病予防と疾病の早期発見・早期治療、重症化の防止を目的として、医療に関する基礎知識や最新の情報を、医療講演会を通して提供いたします。特に、市民の健康づくりや疾病予防を促進するために、院内講演の充実に加え、自治会等各種団体への出張講座を積極的に実施いたします。

また、市民の幅広い年代層が健診を受けやすくするよう努めるとともに、乳幼児への定期予防接種を引き続き実施いたします。

続きまして、25・26ページをご覧ください。「市民参加による運営」でございます。市民の意見の反映の仕組みといたしまして、入院・外来患者アンケート調査の結果、ご意見箱の意見及び対応について、ホームページや院内掲示での公表、病院事業推進委員会や本協議会への報告など広く市民等に周知いたします。

また、市民交流事業として、健康フェスティバルや院内コンサート、また令和6年度は平成27年6月1日の開院から10年目となりますので、10周年の記念イベントなどの開催も予定をしております。

また、「環境に配慮した運営」はご覧のとおりでございます。

最後に、27ページをご覧ください。令和6年度の収支計画を表記しております。表のほど、医業収入から医業費用を差し引いた令和6年度の医業利益は2億7,000万円。医業利益から医業外収益、医業外費用を差し引きした経常利益につきましては、3億400万1千円を計上しており、前年度の経常利益から2億5,375万円増加となります。

以上でございます。

【小紫会長】それでは、項目ごとに意見交換をしていきたいと思います。項目ごとにお聞きしますけれど、最後に言い忘れていたとか全体にかかるようなご意見があれば、最後にまた時間を設けたいと思いますので、そのときをお願いしたいと思います。

それでは、1・2ページ「診療科目」、こちらにつきまして何かご質問等ございませんか。

【萩原会員】計画の一番下の2行ですけれども、院内の診療科間の連携はそのとおり進めていただければと思いますが、院内の診療科間の連携に少し課題があるということで、実際にカンファレンスをするとか、何か改善していかなければいけない点があるのか、それともこういうことをやっているということがあれば、それをあげていただければと思います。

【遠藤副会長】夜間に患者が入院された場合は、翌朝に内科・脳神経外科・その他専門科との協議があって、主治医をもう一度見直すということをしております。

あと、問題症例というのはなかなか人数的なこともあってまだキャンサーボードまではいけませんので、ただ非常に難しかったこと、または、こうした方が良かったのではないかなというようにことに関しましては、後ほど少し検討する場を設けたり、フィードバックしたりするような形は取っております。

【小紫会長】それでは、他に1・2ページ「診療科目」のところでは何かございませんか。

次、3・4ページ「病床数」のところでは何かございませんか。

【伊藤会員】4ページの新興感染症の感染拡大というところがありますが、今日もテレビで「はしか」についての報道があり、奈良でも2人ほど、京都にも出ているということですが、

こういった場合、我々どのように考えたらいいのでしょうか。

【遠藤副会長】つい先日、「はしか」の疑いの方がおられまして、直ちに保健所と情報交換をしました。一般的には抗体検査しかできないのですが、保健所と共有すればPCRという遺伝子検査の迅速検査ができますので、それによって陰性陽性がわかりました。そういうように迅速に対応するようにしています。入院が必要な患者は、今の時点では来られておりませんので、入院体制となったときにどうするのかですが、県立医科大学等と協議して、高次機関に行くのか、または陰圧室がありますので、その辺で対応できるのかというところです。

【萩原会員】職員の就職にあたってのそういうチェックとか、市立病院でされていることをご紹介いただければ、ご安心いただけると思いますが。

【遠藤副会長】全員、抗体はチェックしております。

【伊藤会員】それから、大人の方で予防接種の年齢的な空白というのがあると思いますが、その辺りはどのように対応されていますか。

【事務局（市）】「はしか」が話題になってから、市役所の方にも、「大人でワクチンが接種できる病院はあるのか。」というお問い合わせをいただいております、対応できる病院をご案内させていただいております。

【森岡会員】これまでも言われている病床利用率の向上に向け、入院医療に対応できる常勤医師の確保が、これまでもずっと課題になっているが、なかなか医師不足で思うように進んでいないと思います。ただ単に常勤医師の確保というだけでは難しいと思うので、何か特別に手立てなど考えておられるのか、そういうことがあればお聞かせいただけますか。

【遠藤副会長】特別なものではないですが、以前は、色々な要因があり県立医科大学と良い関係が築けなかったのですが、昨年度あたりから連携が良くなりました。市立病院に対して今まであまりにも制約をかけすぎていたことで、これからは公立病院にも人を配置するという大学の方針を変えたということで、昨年の秋ぐらいからコンタクトもかなり取ってまして、担当の先生ともかなり話ができるようになってきています。常勤は難しいですが、非常勤の医師も来ていただける可能性が高くなっています。何か手を変えたわけではないのですが、いろんな意味で状況が変わってきたということです。それから、近畿大学奈良病院からも医師が一人、外来で来ていただくことになりました。非常勤ではありますが、外来を専門的に診てもらう医師が増えるということで、この報告には出てきませんが、この4月からは明るい話題と心得ております。

【小紫会長】3・4ページのところはどうでしょうか。

次の5・6ページ「人員体制」はいかがでしょうか。

【萩原会員】血管外科、リウマチ科について、0名と書いて（注1）（注2）で注釈していただいておりますが、血管外科1名、リウマチ科1名で書いておいて、注釈で兼務という書き方とどちらが良いのか、ご検討いただければと思います。

それと気になりましたのが、ずっと整形外科が1名で大変多忙だということで、あくまで令和7年度の計画とすると整形外科を増やしてもよいのではないかという点と、薬剤師と臨床工学士が増えていますが、業務の中身が何か変更があつてのことなのか、そもそも多忙だったのか、その辺りをお聞かせ願いますか。

【遠藤副会長】まず血管外科、リウマチ科の表記に関しては、また検討させていただきます。

それから、整形外科が一人で多忙ということになりますが、近畿大学奈良病院の整形外科からの派遣でして、教授の方から常に話をし、若手が入れば新しく入れていくということにはなっているのですが、まだなかなかその話は進んでいないということです。

薬剤師は少ないと言いますか、基本的に病棟薬剤師という、以前は全員でたくさんの方を見ていたわけですけど、今は「病棟は病棟」、各病棟に薬剤師が常駐するという形。または、化学療法もかなり増えてきていましたので、そういうところの担当する薬剤師を増やしていくとどうしても全体に数が増えるということになったということです。

臨床工学士に関してはすることが増えたということではないのですが、今、ニーズがどんどん高まってきていて、以前の人数では働き方改革も含めると、やはりもう少し人数が必要ということです。

【森岡会員】事業計画は確保できる人数が入っているように思うのですが、それぞれの診療科の医師数が目標としてどのくらい必要になるのか、本当はこのくらいの人数が欲しいという人数を入れる表示の仕方によって、将来の問題として、何が足りないのか、わかりやすく見やすくなると思うのです。薬剤師は増えた数字が入っていますが、医師の数字が増えていないという状況があるので、何か工夫をしていただければありがたいと思います。

【遠藤副会長】医師数を増やそうと思えば増やせますが、なかなか明るい兆しだけでは書けない部分ですので、本当は森岡会員が言われたように、何がどのくらい足りないのかを明らかにした上で、みんなでどうしたらよいのかを話し合う会議だと思うのです。単独で努力するだけではなくて、生駒市の医療をよくするためにどうするかということだと思うのです。実際に書こうと思ったら、何人足りないのか、一人で何人見ればよいのか等検討できないといったこともあり、書けないというのが実情です。ただ、本当はそれがあるべき姿ではない

かなと思います。

【小紫会長】遠藤副会長からもありましたが、県立医科大学の対応が変わってきた話などがありました。なかなか市でできることも限られますが、市の方でも色々な取組をしたり、より広い市民の方にもフォーラム等により、今の市立病院の現状であったり、どんな病院になっていくべきで自分たちも何ができるかということを考えていただく、そんな中で課題だけでなく将来的に市立病院の進むべき方向性というものを、10年ということで、いろいろ考えて、将来的に5年後とか10年後を見据えてどういう病院にしないといけないか、そこからバックキャストするための計画の設定が必要なのだと思います。そこは現実的なところからの積み上げと、理想論からのバックキャストの両方の側面が必要だと思います。

【伊藤会員】6ページの下の方で、冒頭にも市長が挨拶で言われた言葉ですが、市立病院が協力型臨床研修病院になったということですが、このことについてもう少し詳しくご説明いただけないでしょうか。

【事務局（指定管理者）】これは令和7年度からになるのですが、4月に基幹型の病院で、市立病院での研修を含めたプログラムを作っていただくということで、来られるのは初期研修の医師となります。初期研修の医師とは、医師免許取得後の2年間を初期研修と呼んでおります。今のところ、県立総合医療センターで外科のプログラムの中に市立病院を入れていただくという形で話をしております。しかしながら、研修医の医師が市立病院を選んでももらえないといけないので、確実に来るということとは言えません。あとは、徳洲会グループの産科・小児科の研修ができる病院の分娩件数が減っている中で、自院で研修ができない施設がございますので、協力型として連携を取って、当院の産科と小児科の研修を受けていただく。2年間で実績が取れると、次の基幹型臨床研修病院にステップアップできます。最低2年はかかるということになるかと思います。若い医師が来るので病院としては非常に活気が出てくるということです。

【栗岡会員】臨床研修医については外科ということで、実際に治療や手術などにも携わるのでしょうか。

【事務局（指定管理者）】医師免許を持っておりますので、手術にも携わります。

【小紫会長】県総合医療センターが基幹型で、市立病院はその協力型の病院ということになります。先ほどもありましたように、若い医師が来られ、2年間そういう形で協力して受け入れの実績を積んでいただく。もちろん若い医師が来て活気もでますし、その医師がその後、市立病院で働く。それで実績があがれば市立病院が協力型ではなく基幹型になっていくとい

う、色んなプロセスがあると思いますが、それが、令和5年度に認められてスタートするということです。

5・6ページで、他にございませんか。

次の7・8ページ「患者数」はいかがでしょうか。

【玉井会員】市民への周知の取組に関してですが、私自身近くに住んでおりますので、毎日病院の姿を見ておりますし、当会の会議に参画させていただいてから、よりいろんな情報を拝見するようになりました。より意識してこの病院を拝見させていただいているのですが、市立病院の存在を知らしめるということで、様々なPRとして、市立病院と市双方ともに広報誌やLINEなどで、デジタル、アナログを含めて広報をなさっています。発信された情報について、関係者や市民がその情報をどのように受け止めているのか、うまく伝わっているのかという、そのようなあたりは病院としてどのように把握されていますか。

公式LINEアカウントの数も増えていて関心が高まってきているのは、非常によくわかりますが、アンケート調査などもされているかと思いお聞きしました。

【遠藤副会長】確かに非常に大事なことです。いろんな取組を今年もしていこうと思っています。4月からは日曜日も外来診察をしますし、そういう色々な取組に関して、今言われたように、どう思われているのか非常に気になるところです。その辺りはまた考えていきたいと思っています。

【玉井会員】病院の実績とか病院のここに注目してくださいという、そういう情報をこれからはいろいろ受け手の反応を見ながら、あるいはLINEアカウントで発信したその情報のリターンであるとか、そのようなものを見ていきながら、情報として出すときに、活字のみならず、映像表現とかも入れていただければ、よりメッセージ性が強くなるのではないかと考えております。それと非常に関心を持って「病院だより」を拝見しております。病院のラックに置いてありますから、診察の待ち時間にも手に取って見ることができます。情報としてはそれなりに詰まっておりますので、例えばより多くの方にそれを見ていただくということで、自治会に回覧したり、あるいは近鉄に協力してもらって生駒駅や東生駒駅等ポイントとなる駅のラックに置いていただくとか、映像表現で言えば、市立病院の1階ロビーのデジタルサイネージに動画を流したりというように、活字だけでなく、視聴覚に訴えるという意味合いの情報の発信の仕方をお願いできればと思います。

【小紫会長】ちなみに市立病院のLINEの友達登録数は今、1,747件で、情報提供の映像の活用とか動画の活用という課題はまだあるのですけれども、タイムリーな情報提供をいただけているかと思っております。

7・8ページで、他にございませんか。

【萩原会員】1日平均患者数は直線的に増えていっていると思うのですが、これの意図するのは、人員確保の予定で進めていくのか、それとも病院として成長期にあるということになっているのか。季節性もなく増えているので、その辺り意図するものはありますか。

【事務局（指定管理者）】看護師の増加に合わせて伸ばしております。

【小紫会長】他に、何かございませんか。

続きまして9・14ページ「質の高い医療の提供」でいかがでしょうか。

【玉井会員】1月の医療講演で遠藤副会長がお話になられた高気圧酸素療法についてお聞かせいただいたのですが、「血管が詰まって末梢へ血液が流れない」とか、「腸閉塞等の病気に極めて効果が大きい」とおっしゃっておられました。そもそもは潜水病の治療手段ということですが、申し上げましたように今では幅広く様々な疾病の対応が可能ということと治療の効果も非常に大きいというご説明でした。ただ、この医療機器は奈良県内では市立病院の1台しかないということで、市立病院で導入されている経緯みたいなもの、それから導入の考え方を少しあわせて教えていただければと思います。

【遠藤副会長】医療講演を聞いていただきありがとうございます。高気圧酸素療法は、昔から潜水病の治療法としてあったのですが、それ以外に虚血性の疾患等、そういう血球を介せず酸素を送り込んで治療するという考え方によって、非常に多くの分野に役立つのです。経緯としては、徳洲会グループでは、いろんな治療に関しての勉強会をグループ全体でするのですが、その中で高気圧酸素療法は非常にみんなの心をとらえたといいますか、実は沖縄では潜水病があるので以前から導入されていたのですが、それ以外の治療に非常に役立つということで、もう日本津々浦々の病院には多分全部入ったと思います。

稼働しているところも非常に多いです、海が関係のない奈良県でも、医療講演でもお示したように月に100件前後の治療ができるということです。入った経緯はまずその勉強会によって知識が繋がっていったのと、実際に入れるスペースがあったということです。

【玉井会員】今も遠藤副会長がおっしゃられたように、ここ数年使用件数が非常に大きく伸びてきていると具体的に件数までお知らせいただきました。腸閉塞や突発性の難聴にも効果がある。その他では、放射線性出血性膀胱炎。それが大きくベスト3ぐらいの件数だというお話もございました。多様な疾患に対して効果を発揮しているということでしたので、しかも県内に一台で、かつ対応できる疾患も多いということであり、経営面から考えても非常に相当な強みになるのかなとお話を聞いて感じました。これから先、もう少し長い目で見えて、例えば2台目を導入することの意味があるのかですとか、腸閉塞や血管狭窄は、院内に関係する診療科がありますが、突発性難聴は関係する診療科がありませんので、例えば耳

鼻科があれば良いのか、その辺のことをお聞きできればと思います。

【遠藤副会長】これから色々広げていこうと思っていますし、近畿大学奈良病院の耳鼻咽喉科の医師からも結構紹介をいただきまして、大きな病院からが多いのですが、診療所医からも患者紹介が増えればもっと使えるようになると思います。耳鼻科を標榜するかどうかについては、患者全員が突発性難聴ではありませんので、その辺りは少し考えてみます。

【伊藤会員】10ページで、導入予定機器について、新生児医療の医療機器の導入・更新が多く見受けられて、市立病院のコンセプトにある小児医療の充実に非常に良いことだと思います。低侵襲手術について広くPRしていくということですが、新生児用の医療機器とかこういう機器についてももっと広くPRしてもらえたら良いと思います。

それから、こういった医療機器は他の病院に比べて進んでいるのか遅れているのか、この6月に10周年を迎える病院としていかがでしょうか。

【遠藤副会長】PRに関しては、本当にこういう機器があることをしっかり記載して、利用する患者だけでなく医療機関にもそれを知っていただければ、当院を利用することができるかもしれないので、その辺りを検討していきたいと思います。それから機器に関しては、新しい機器を入れる時には最先端のことを考えていきますので、当院としては最新のものを考えております。地域と比べますと、近畿大学奈良病院よりは下だと思いますが、他の病院に比べてというのはなかなか難しいのですが、ダ・ヴィンチにしても搬送用保育器にしても、最新のものを入れていますのでそこら辺は安心してください。

【萩原会員】少し話が戻りますが、高気圧酸素療法のところ、基本的には末梢血管や腸閉塞、標準治療に対する力量を上げること、その人員を確保することの方が非常に大事で、突発性難聴などの治療器に入ることだけの使い方をするのであればそういう方針であればいいし、突発性難聴はできるのかもしれませんが、全身の疾患になってくるとそうはできないので、その辺り方向性を見極めて、アピールするのは良いですが、結局末梢血管の患者が集まれば、当然ニーズが増えますが、まず主治医だけで頑張ろうとしても、無理があると思います。現場の医師はよくわかっていると思います。その辺で先ほどの医師の人員でも末梢血管を診る医師を増やすとか、外科系・消化器系を強くするとかいうことを、まず、ここにあるからこちらを向くというのを書いていただいて当協議会で話し合えればと思います。

【遠藤副会長】選択肢が増えるということで、例えば、イレウス、腸閉塞に関して言うと、今までは保存的に鼻から管を入れての手術であったりしましたが、この間発表しましたが、鼻から管を入れる率が非常に下がっているというのはもう間違いない事実です。それはまたどこかで発表していこうかなと思っています。

【小紫会長】他に、9から14ページでございませんか。

次に、15から18ページ「地域完結型の医療体制構築への寄与」について、いかがでしょうか。

それでは、19・22ページ「救急医療の充実」について、いかがでしょうか。

【栗岡会員】前回の会議で、転送が44件あったと思うのですが、近隣の住民の方から、救急車が入ったと思ったらまだ出ていったという話が一時すごく多いときがあり、住民の間で話題になったことがあるのです。患者の立場から言いますと、やはり最初に入ったところで診ていただきたいというのがありまして、転送について理由がよくわからないですし、転送先についても市内なのか県内なのか県外なのか数値を分けていただけるとわかりやすいと思います。

【遠藤副会長】転送については、救急受入件数に対してそんなに多く感じないのですが、実際に「科の問題なのか、重症度の問題なのか」というところがあるので個々に検証したいと思います。

まず、表記の仕方に関しては、改善はできると思います。救急の問題点としては、県立総合医療センターという最後の砦があるのですが、そこに全部集まると、当然ですが、その救急が回らなくなるのです。消防の方がおられる会議でよく言われるのは、やはり輪番という体制を取っているにもかかわらず受けない病院が多いのです。以前に、29件目に受入の連絡を受けたことがあります。こんなに断られてきているのです。

でも、受けて、例えば点滴一つ、鼻出血なら少し押さえて止血剤を注射するというのはいくつの方法ですので、そうしておいて耳鼻科の病院に転送するというのは、内容的には正しいと思っています。救急車のサイレンは全部一緒ですので、事例を出せると良いのかもしれないですね。無理して取って転送するというのは良くないと思います。

【栗岡会員】受け入れて、救急処置をし、診断をつけて、見ていただける病院に転送されているということでしょうか。

【遠藤副会長】そうです。例えば、脳梗塞疑いでもMRIは24時間取れる体制ですので、技師も常にいますので、まず検査をします。例えば、めまいや痙攣、でも治ったのでという状況であっても、結構断られたりということがあったりすると、当院で検査をして、何もなければそこで終わりですし、何かあれば高次病院や脳外科の専門病院に連絡しています。

【小紫会長】転送をするのも、もちろん患者からすると、入った病院で診てほしいというのがあるかもしれません。市消防も、受け入れていただける病院がなくて、ずっと断られ続け、救急車を走らせるというのがつらいと。ましてや、その患者が救急車の中でお亡くなりにな

ると、それは一番つらいという話をよく聞きます。やはり受け入れていただいて、できる処置や検査をし、治療が市立病院で難しいということで転送するということはあると思います。近年急増している救急受入件数が3,000件という中で、転送の44件は必ず多いとは言えないかと思います。

他に、ございますか。

それでは、次に23・24ページの「小児医療の充実」「災害時医療の確保」「予防医療の啓発」の3項目について何かございますか。

【岡島会員】災害時の話になるのですが、市立病院というより市へのお願いの内容なるのかもしれませんが、市立病院は当初、災害に強く造られているとお聞きし認識しております。その中で、免震であったり、周りが停電となった場合でも自家発電で何日間かやっていけたり、水道が止まれば地下水の対応があり、人工透析等水が必要な医療も実施可能なように建てていると聞いています。できた当初はとても興味のある話で皆さん食いついていろんなことをご存じの方もいらっしゃるかも知れませんが、10周年を迎えるにあたり、市立病院が災害に対してもきちんと考えている立派な建物だということを、先ほど玉井会員もおっしゃったように活字でそれを出すという部分は一つの方法かもしれません。あるいは公共事業の中で、いろんなPRをするに当たってプロのナレーターを使って映像化してアピールされている状況が多いかと思うのですけれども、次の若い世代にこの生駒の地域として災害医療というものに対して、安心して、この町に住んでいただくための市立病院の一つの中核となるのですね。災害時の避難場所ではないことは絶対周知していただくことも一つかと思えますけれども、その後の、「安心・安全のまち」のPRと言いますか。周知をしていく方法として、何か結果をいただいた上でどこかで発信できる何かを作っていただければと思います。

【遠藤副会長】最後に少し話をしたいと思っておりますので、その中で災害医療も含めてさせていただきます。

【小紫会長】他にございますか。

それでは、25・26ページ「市民参加による運営」「環境に配慮した運営」について何かございますか。

【栗岡会員】東生駒自治会から「意見書」を預かって参りました。その他の項目になります。が、「病院周囲の植栽以外の雑草は綺麗にされた方が良いと思います。」とのこと。

【小紫会長】毎回、自治会での意見を集約してこの場で言っていただけるのはとてもありがたいことです。ありがとうございます。

【事務局（指定管理者）】今のところ年2回、梅雨前と秋の健康フェスティバルの前に、シルバ人材センターにお願いしております。屋上庭園は、昨年、雑草等を一気にやっていたできました。あとは、病院北側裏の植栽に害虫がついていたのですが、市と協力して害虫駆除をやりまして、随分と樹木は生き返りました。今後も継続して樹木の管理をしていこうと思っております。

【小紫会長】自治会の方にお伝えいただく機会があれば、よろしくお願いします。
他に、25・26ページでございますか。
最後、収支のところで何かございますか。

【萩原会員】中間報告の時はデータをいただいていると思うのですが、令和5年度は見込みと遜色ないと理解してよろしいですか。令和5年度の決算ができていない中で、令和6年度の事業計画を出されてもピンとこないのですが、予定通りですか。

【事務局（指定管理者）】予定は上回っております。前半はコロナの空床確保料等がございましたが、それを除きましても、市立病院が開院して初めて経済利益で黒字化になりました。

【萩原会員】来年度、コロナ関係の補助金がないものと考えての数字ですか。

【事務局（指定管理者）】はい、そうでございます。

【小紫会長】他に、よろしいですか。

それでは、言い忘れたとか全体に関わるようなことで、何かご質問等ございますか。

特にないようでございますので、今日はたくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。6年度事業計画につきましては、いただいたご意見も踏まえながら、しっかりと対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事業計画については以上でございますが、会議次第4「その他」ということで、遠藤副会長からよろしくお願いします。

【遠藤副会長】少しだけお時間をいただいて、先ほどの災害医療を含めてですが、私の意見を話したいと思っています。

まず、私が市立病院に来たのは、生駒の医療をもっとよくできるのではないかと、整備をすれば役に立てるのではないかと、まず目標を立てたのはDPCという経営方針、それから病院機能評価という第三者による病院の評価、それから臨床研修病院の三つの目標を立ててやってきました。何とかこの三つを道半ばといえども道半ばですが、達成しました。

経営も黒字経営となり、ここで出来ることは何かと考えました。昔から「なぜ医療に土日

があるのだろう」と思って、別にその土日働きたいわけではないですが、小さい頃から田舎に住んでおりましたので、病院に対して非常に不便さを感じていたこともあり、いろんな障壁はあるのですが、4月からは第1・第2・第3日曜日に一般外来をやっていこうということになりました。

病院を良くするということではなくて、医療を良くする。災害医療もそうなのですが、単体の病院でやることには限界があります。例えば、うちの病院のメリットとして、いろんなライフラインがあります。

生駒市には優秀な医師やスタッフがたくさんおられます。もし、被災した時に医師の皆さんが何もできないともったいないので、治療等をする場として市立病院を提供できればよいと思うのですが、なかなか病院というのも、やはり経営なのです。本当はそういうものではないはずですが、やはりいろんな意味で難しいです。なかなか難しいでしょうが、やはり本当は医療というのは、根本なところにありますので、その市がこういうことをしたいとか、市が災害の対策をするということに対して、医療は全てある程度応じて、医療側が何か施策をするのではなくて、市が市民と話をしながらどういう体制が一番いいのだろうということを考えながらやるべきだと思っています。その場所として市立病院を提供することは全くやぶさかではないと思っています。それができるかどうかはこれからの話し合いです。

それができたときに、災害医療だけではなく、自分のそばの病院に行き、対応できなければ対応できる病院に送ってもらえたり、紹介されたりということがスムーズに行われるとすれば、何もその病院を選ぶ必要もなければ、間違ったと思わなくてよい。そういう医療体制を市ができたなら、理想じゃないかなと思います。いろんな医療施策が国から出ます。国の施策が全てではないですし、全てそれによらないと医療はできませんが、生駒市の医師全員やスタッフ全員で何ができるかも含めて、市民も全員含めて考えながら、医療の究極を展開できればよいなと思います。

この6月で市立病院は10年目で、医師も少ないなりに出来ていて、県立医科大学もそれを評価して、これから何ができるかわかりませんが、本当に災害医療は明日起こるかもわからないので、行政の方とよく話をして、オペ室が余っていたら他から患者を連れてきて、例えば本当に他の病院の医師が治療してくれてもいいと思っています。ただそういういろんな制約があるのでできるかどうかというところですが、医者がいて、患者がいて、そういう考え方で何か縛られないで、何かできることをもっと自由に考えてやれば、災害だけではなく、例えば脳神経外科が弱いので、手術など阪奈中央病院の院長に相談して、いける時は受け入れていただいています。夜は近畿大学奈良病院の脳外科の医師が取ってくれますので、市内で非常に回していただいております。もっともっと気楽にというか、できるようになれば良いなと思っています。それを基本に、森岡会員が言われたように何人足りないのか。例えば、災害医療の時に何人の医師が要ればどれだけの手術室が使えて、どれだけの手術がその時間内にできるのかを試算しとけば、例えば外科医師だけだったら、当然2時間で1室しか使えませんが、他から来てもらえれば4室同時に使用できます。現実問題かどうか

わかりませんが、なんか面白い考え方かなと思っておりまして、そういうのも含めて、この10年から後何年かかるかわかりませんが、こういう会議で話し合っていけたらよいなと思っております。あくまで私見です。

【小紫会長】1月1日に能登半島地震があり、市立病院や徳洲会グループでも現地に行っているという聞いております。大地震の備えをより加速化させていこうということで予算など4月から対応しております。災害拠点として、避難所であります特に中学校では市医師会の医師に多大なるお力をいただいて、診療医療をしていただく場所となっておりますし、医師会の医師からもお話をいただくような形で、具体的に避難所でいろんな病気や患者によってどのようなレイアウトをするのか、何が要るのか、もう一步踏み込んでやっていこうと防災安全課や健康課と話をしているところです。それに加えて、そこでは対処できない大きな怪我や病気の場合は、市立病院や他病院へということになります。免震・水道・電気・ガス等、新しいことが非常に充実しておりますので、避難所との連携を含め、市としても考えております。災害と医療の関係でご質問等、他にございませんでしょうか。

市から、一つはこの管理運営協議会は年3回開催させていただいておりますが、市立病院自体をもう少し広く市民に知っていただいて、いろんな市民のご意見をいただいて、「生駒市立病院がこんな病院になってくれたらよいのに」とか、ひいては生駒市の医療行政や医療とまちづくりというところ、介護との連携など、いろんなご意見をいただいて、それをしっかりと反映していくという、管理運営協議会の在り方について、もう一つは先ほどから冒頭でも申し上げましたが、市立病院がこの6月で10年目に入りますので、いろんな企画、どういう市立病院を目指すのか、市がどういう医療とまちづくりを考えているのか、改めて整理をして、広く医療関係者や市民にお伝えをしていくようなそういう1年。この6月から丸10年になる令和7年6月の1年間を次の10年の医療を考える1年にしたいと思っております。

この2点、管理運営協議会のあり方と10周年ということで、お願いします。

【事務局（市）】市長から大枠のご説明をいただきましたけれども、お時間をいただきまして改めて資料をもとにご説明させていただきます。この市立病院の管理運営に関する今後の取り組みについてということで報告になります。

一番ですが、これまでの経緯として、現在本協議会は前年度の病院事業実施状況調査報告と中間報告、そして次年度の事業計画を一つのサイクルとして開催しております。ただ現在感じております課題としまして、大きく三つ整理しています。

一つ目が、中間報告が11月末頃になってしまって、下半期の上に提案を反映する期間が短くなっていたため、効果が少し不十分となっていること、

二つ目の課題としまして、議論が数値の増減や少し専門的な内容に偏ってしまう傾向が強くなってしまうことから本来の目的である病院の運営および計画策定に市民の意見が盛り

込みにくくなっている部分が少し出ております。

三つ目として、本協議会会員以外の意見を聞く場を積極的に設けるとともに、市民への更なる発信に取り組んでいくことが必要と考えております。

また、三番として、現在の市立病院を取り巻く状況が大きく変化しているということです。変化の大きな一つとして、患者数が増加し、職員の定着も進んでいることから、体制が整いつつあるとともに、病院経営も安定してきております。

二つ目としましては、今年の2月9日付けで病院機能評価を取得しました。県内75病院中15病院が取得という状況ですが、このことによりまして、安全安心、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院として第三者機関による評価を受けたことになります。今後もこの評価というのは引き続き受けていくこととなります。

最後にこの1, 2, 3を踏まえまして、結論となりますが、令和6年度は次の2点を中心に進めていきたいと考えています。

一つ目としまして、本協議会は、1回目に前年度の病院事業実施状況調査報告、2回目に次年度の事業計画についての意見を伺う会議として開催いたします。

二つ目としまして、医療関係者、市民、市立病院および市が集って、意見交換を行うフォーラムを年に1回、4月から市立病院に関する市民を中心としたワークショップを複数回開催したいと考えています。

市立病院が今年の6月に10年目を迎えて、これまで以上に市民に市立病院を知ってもらえる場を作っていければと考えています。その際には、会員の皆様にもぜひご協力をお願いしたいと思っております。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

【小紫会長】10周年の話はよろしいですか。

管理運営協議会のあり方についてということで一つご提案でございます。会員の皆様にも、フォーラムやワークショップにご参加いただいて、実際にいろんな話だったり、ワークショップでは大変恐縮ですがグループに分かれていただいたりしながら、医療関係の皆様にはそういう知見、専門的なアドバイスやご意見もいただいたり、他の地域の皆様と一緒にご意見を出しあったり、またリーダー的に入っていただければと思っております。

事務局から説明があった通りですが、何かご質問ご意見ございますか。

【森岡会員】今おっしゃっている趣旨で良いと思います。今までの報告はどうしても全般的な数値の記載が多いように思います。よく知っている人はわかると思いますが、市民では、日々何が問題なのかがわかりにくいと思うので、今、市民として求めているものに対してどのように対応をしているのかをわかりやすく、そういう意味では、専門家の中でそういう点も踏まえた全般的な報告と同時に、市立病院としての立ち位置の中がこうですというような形で定期的に報告されるというのが、市民にとってもわかりやすいのではないかと思います。

ので、検討していただきたいです。

【小紫会長】もうそういうフォーラムとかワークショップをするということであれば、まさに森岡会員が言われたそういう説明の仕方であったり、市民の皆様が一番知りたいところかどうかということだったり、逆に我々もきちんとそういうところをもう一度見つめ直す貴重な場になると思っております。病院の定期的な講演会もやっていただいておりますけれども、より市も関わって、ワークショップ的ないろんな意見をいただくような機会も、単にフォーラムで素敵な話聞いていてよかったなということだけでなく、これからどうしたらよいのかというアイディアと、またお力を貸していただくようなワークショップも取り入れていくということを考えております。

【玉井会員】今、小紫会長がおっしゃられたように、やはり病院から発信される情報を、さっきも質問しましたように、市民がどのように受け取っているのかということやフォーラムなりワークショップなりで市民から反応が出てくると、情報を双方でやり取りできるということになりますので、そういうやり方で進められるということには基本的には賛成をしたいと思います。その中でもっともっとフォーラムとかワークショップに来られた方から、率直な生のご意見が出てきて、それに対して病院側からお答えされたいと思いますし、先ほど遠藤副会長がお話になられた災害のことや、ここの病院が今後10年に特に何をを目指したいのかというような思いも、そういう場を活用して発信をどんどんされたいのかなと思いますので、よろしくお願いします。

【小紫会長】次年度から本協議会は2回になりますけれども、引き続き医療関係・地域の皆様からご意見をいただき、病院の機能や医療的な観点からのご意見をいただきながらやっていくということはもちろんですし、逆にこのフォーラムとかワークショップした中で、こんな意見があり、事業計画に反映したという報告を含め、年度末の事業計画の議論をしていくようになります。とりあえず来年以降、このような形で開催させていただきますので、よろしくお願いします。

それではもう一つは、市立病院が10年を迎えますので、この6月から約1年をかけて、色んなテーマはありますけれども、議論いただくような機会を作り、市民はもちろん、医師会を始めとした医療関係の皆様にもいろいろと意見交換をさせていただいたり、いろんな方からご意見をいただいたりした内容を踏まえて、今後の方向性に繋ぎこんでいきたいと思っています。一つの着地点ですが、令和7年6月が丸10周年ということになりますので、ここで10年目の記念フォーラムや式典ができればよいなと思っております。そこで形だけのフォーラムや式典をするのではなく、市全体としてどのような医療体制を作っていくのか、また、医療・福祉・介護のネットワークというのが市にありいろんな方のお力をいただいて運営しますが、福祉・介護も含めたまちづくり、そこも踏まえて、次の10年、市立病院が

市全体としての方針に基づいてどういうことをしていくのかということを表明していく場にできればと思います。

大きな方向性だけ紹介させていただきました。管理運営協議会のあり方の話とちょっと繋がってくる場合がありますけれど、より広く市民の皆様に発信をし、その発信した内容を元にこのような病院、このような町にしてほしいというご意見をいただいて、それをしっかりと我々の計画にも、運営にも反映させていくということでご理解いただければと思います。他になれば、最後事務局からお願いします。

【事務局（市）】本日ありがとうございました。令和6年度生駒市立病院事業計画書につきましては3月議会において報告させていただく予定です。

なお、次回の会議は、8月頃に令和5年度生駒市立病院事業報告書について実施状況調査を行い、会員の皆様からご意見をいただく予定としております。

事務局からは以上です。

【小紫会長】先ほど申し上げたようなことが、8月までに少し始まっているかもしれませんが、8月の管理運営協議会の時により具体的なお話をして、様々な取り組みを1年間で進めていくことになりますので、ご理解を賜ることができればと思います。

それでは、以上をもちまして、令和5年度生駒市立病院管理運営協議会第3回会議を終了させていただきます。会員の皆様には引き続きよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。